

全校生徒で取り組む「エシカル消費」への第一歩

学校教育における普及・啓発

伝統

地域への普及

徳島県立城北高等学校

所在地：徳島県徳島市北田宮4-13-6
沿革：昭和16年4月に徳島県立渭城中学校として開校
学科：普通科、理数科学科
生徒数：1年 281名/2年 277名/ 3年 274名
合計 832名(平成30年5月1日現在)

平成29年度から「Go!Go!エシカル」わくわく徳島プロジェクト「エシカルクラブ」実践校として活動

○事業・活動の概要

徳島県立城北高等学校は、平成29年度から、JRC(青少年赤十字)部員のほか、各クラスに2名ずついる環境委員や家庭クラブ委員を中心メンバーとして、「エシカルクラブ」を発足させ、学校全体でエシカル消費についての理解の促進や啓発に取り組んでいる。

○エシカル消費とは？ 知ることからスタート

当初は教職員も生徒もエシカル消費に関する知識が余りなく、書籍やインターネットで情報を収集することから始めた。平成29年7月には、四国大学短期大学部の加渡教授を招き「はじめてのエシカル消費」と題して講演会を行った。講演会では、エシカル消費とは何か、商品の生産過程を知ることの重要性、持続可能な地域作りにおけるエシカル消費の必要性などを学び、一人一人がエシカル消費の考え方を深める機会となった。

○エシカル消費について考え、伝える

講演会を通じて学んだことなどを基に、全校生徒がエシカル消費の啓発標語を考え、このうち優秀なもの10作品を教職員が選考し、表彰した。また、このエシカル標語10選を用いて「エシカル幟」を製作した。幟の色は、徳島県の特産品である藍の色と、環境をイメージした緑色とし、文化祭や公開授業などの折に触れて幟を掲げることで、学校内外にエシカルクラブの活動をアピールした。

エシカル
標語
10選

- エシカルな 商品選択 始めよう
- 知ることが 未来へつながる エシカル消費
- 意識しよう エシカル消費で 地球の未来
- 地域のため 自分のために 地産地消
- お買い物 いろんなマーク 気にかけて
- 商品を 買って応援 バイコット
- 考えよう ものの向こうの 人の顔
- その商品 エシカル配慮で こっちにせん？
- ちょっと待った どうせ買うなら エシカル消費
- エシカルが 世界を救う一つの鍵

また、エシカル消費を広めるため、何か形に残るものを生徒にと考え、啓発用のリーフレットやクリアファイルを作製した。これらには、美術教員がエシカル消費から連想する色や形をイメージ化して考案した城北高校エシカルクラブのシンボルマークが入っている。クリアファイルは、全校生徒と教職員のほか、体験入学で同校を訪れた中学生やその保護者など、延べ1,000人以上に配布した。手に取った人がエシカル消費を考えるきっかけとなるだけでなく、普段から使ってもらうことで日常的にエシカル消費を意識する助けにもなると期待されている。

なお、障がい者の社会参加を後押しするため、幟の製作やリーフレットの印刷等は、地域の特定非営利活動法人とくしま障害者授産支援協議会に発注した。



○地域の伝統を体験する

地域に配慮した消費に目を向けるため、平成29年度には、徳島県の伝統工芸品である手漉きの「阿波和紙」を使用し、大切な人に手紙を書こうという試みを1・2年生と教職員で行った。手紙を出した人も受け取った人も、共に「阿波和紙」に興味・関心を持ち、その良さを見直して日々の生活に取り入れてほしいという狙いである。

また、平成30年度の夏休み期間に、徳島県の伝統産業である「藍染め」の体験施設「藍の館」で、希望者が藍染め体験をした。制作した藍染め作品と共に、染料である藍ができるまでの過程などの学んだ内容をパネルにまとめ、文化祭にて展示した。

○今後の活動

エシカル消費という言葉自体については、生徒にも教職員にも徐々に浸透してきている。ただ、日常生活においてエシカル消費を意識した行動が採れているかという点では、まだスタート地点に立ったところである。今後は、日々の生活とエシカル消費のより具体的な結び付きを学ぶことで、生徒がエシカル消費を自分事として捉えて行動できるようになることが大切であると考えている。

公表日：平成31年3月22日 取材：平成30年12月
外部リンク：<http://johoku-hs.tokushima-ec.ed.jp/>